

物語教材を読む力を育てるための授業実践

西条小学校 横田 優美

1 実践の趣旨

児童は、物語を読むことは好きである。しかし、児童の読み方は様々である。例えば「主人公の気持ちにそって読んでいく。」「主人公に同化して読む。」「あらすじをおって読んでいく。」など様々に読んでおり、その自分の読み方は意識していない。読むためにどのような力が必要かということも明確に意識していない。本授業実践では、様々な読み方の中の一つの読み方を習得させ、その力を使って別の作品を読むというものである。それは、教材文「ごんぎつね」で習得した登場人物の設定（人物像）、物語の構成、人物の行動や会話から中心人物の心の変化を想像するという文学的文章の読み方を活用して、同一作者の他の作品で心の変化を読み取るという学習を展開するものである。

2 実践の概要

(1) 単元名

「お話カードをつくろう！ ごんぎつね（東京書籍4年下）」

(2) 手立て

本授業実践では、次の力を働かせて物語を読む力を育成する、

既習事項（指導計画に明記）や教材文で身に付けた物語の構成や登場人物の気持ちの変化等を想像して読むことを活用して、教材文と新美南吉の他の作品とを**比較して考える力**

比較して考えるために次の三つの力を育成する手立てを授業で準備した。
特に本授業実践では思考力育成に取り組んだ。

<思考力>

- 人物の気持ちの変化を読み取るために「ごんぎつね」の構成や気持ちの変化を読み取った学習と関連付ける力

<判断力>

- 人物の気持ちの変化を想像するために根拠となる語や文をとらえて選択する力

<表現力>

- お話カードを書くために、あらすじや心の変化を教材の一文から引用したり、短くまとめたりする力

(3) 指導計画

本単元の目標

- 文学的文章に興味をもち、進んで読もうとする。【関心・意欲・態度】
- 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読む。【C読むこと（1）ウ】

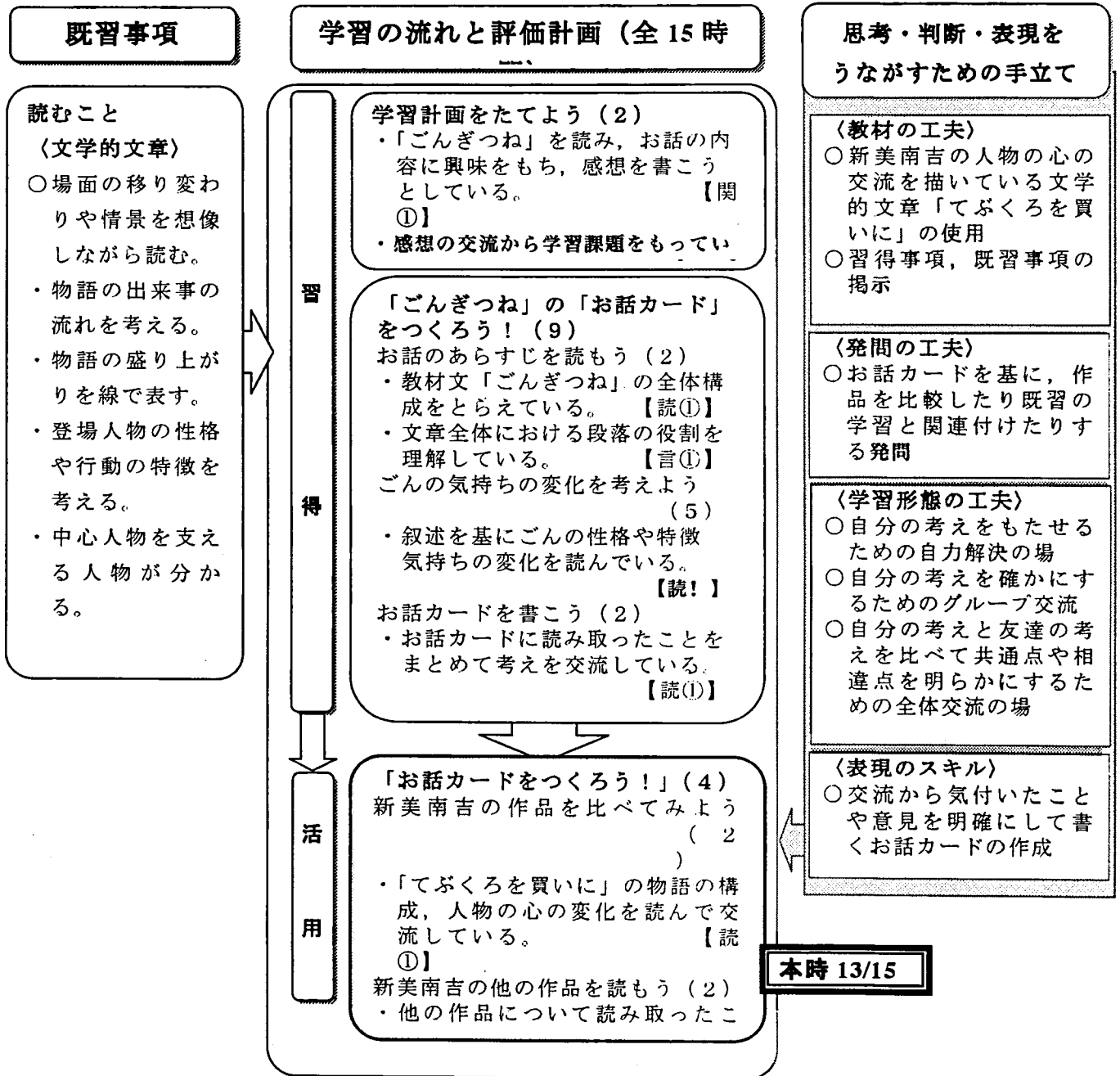
児童の姿

- 児童は、物語の盛り上がりや出来事の流れを考えたりしながら文学的文章の読み方を学習してきた。登場人物の気持ちを想像し読み取ることができる児童は85%である。読むことのテストで内容が十分把握できない児童が10%程度いる。
- 前学習において、お話カードを書く学習過程は経験しているが、中心人物の心の変化を視点として書くことは初めてである。また教科書の文学的教材文以外の作品を読み取る活動も初めてである。

単元について

- 本単元は、読み取ったことをお話カードにまとめる活動を通して場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読む力をつけることをねらいとする、お話カードにまとめる活動は、物語の構成で場面の移り変わりを、情景や登場人物の行動、会話の叙述から人物像や人物の心の変化を読み取る力につながると考える、それらの読む力を活用して新美南吉の他の作品を読み広げることは、優れた描写や表現の工夫に触れ感性を伸ばしたり読書の幅を広げたりすることにもつながる。
- 本単元では、文学的文章の読み方の視点を活用し、新美南吉の他の作品を読み広げ、お話カードにまとめるという活動を仕組む。他の作品をお話カードにまとめる活動は、物語を全体でとらえ、中心人物の心の変化を読み取ることに効果的で読む力につながると考える。

単元の流れ



(3) 授業の様子 (本時 13/15)

教材文「ごんぎつね」で習得した登場人物の設定(人物像)、物語の構成、人物の行動や会話から中心人物の心の変化を想像するという文学的文章の読み方を活用して、同一作者の他の作品「てぶくろを買いに」で心の変化を読み取る学習を行った、特に思考力育成のための手立てについて授業の様子を記述する、

<思考力育成のための手立て1>

「ごんぎつね」の習得事項を活用し人物の気持ちの変化を読み取るために新美南吉が心の交流を描いている「てぶくろを買いに」を使用する。

評価方法

アンケート
お話カード

中心人物、心に残った文章、物語の盛り上がり線を記述した資料1のカードを基に、資料2のお話カードを書かせ、気持ちの変化のきっかけとなった出来事は何かを考えさせた。そして、「～な主人公が～な出来事を通して～になるお話」と短い文章であらすじとして表現させた。このようにきっかけとなる様々な出来事に着目させることが、人物の気持ちの変化をお話の展開から読み取る力をつけるために必要と考えた、「ごんぎつね」での習得事項を活用し、人物の気持ちの変化を考えるという視点に沿って作品を比べることができるものとして「てぶくろを買いに」を使用したところ、児童は中心人物ごんぎつねが、母ぎつねの言葉と人間のぼうし屋さんや母親の行動とを比べながら、人間に対する気持ちが変わっていく様子を読み取った。

物語の盛り上がり線を線につなぐ

一番の盛り上がりとその理由

心に残った文

おすすめ場面

～な主人公が～な出来事を通して～になるお話

資料1 習得事項となる「ごんぎつね」のカードの例

資料2 習得事項となる「ごんぎつね」のお話カードの例

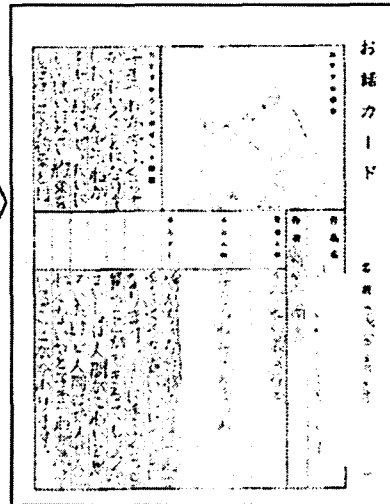
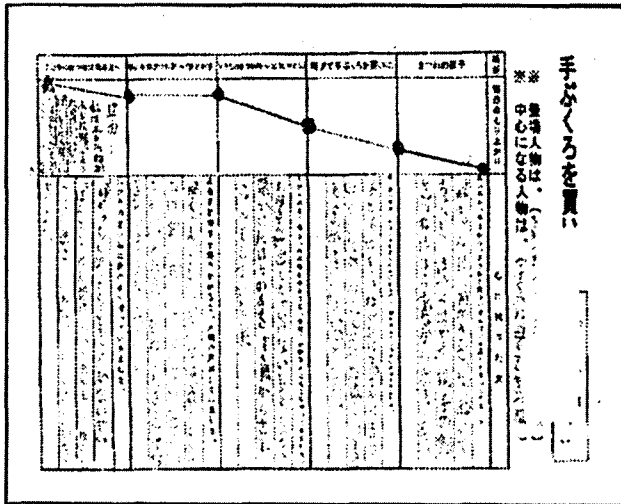
<思考力育成のための手立て2>

「ごんぎつね」で気持ちの変化を読み取った学習と「手ぶくろを買いに」を関連付けて考えさせるために、板書や発問の工夫を行う。

評価方法

アンケート
ワークシート

「ごんぎつね」での習得事項を活用し、資料3の「てぶくろを買いに」のカードやお話カードを書き、交流を行った。そして、物語の全体の構成と中心人物の気持ちの変化を読み取った。そこで、資料4のように「ごんぎつね」の学びを黒板上部に提示し、物語の流れや気持ちの変化を「てぶくろを買いに」と比べられるようにした。どちらの教材も人物の気持ち

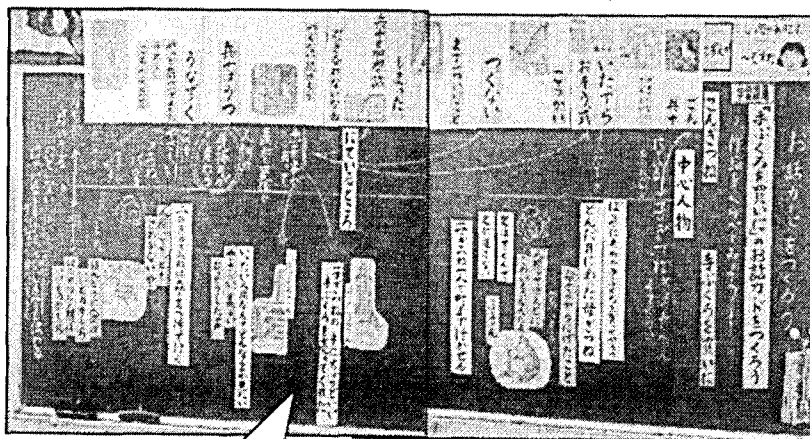


出来事を通して変わっていることに気付かせるために「二つの作品で似ているのは、どんなどころでしょう。」と発問し、資料5のようなワークシ

<資料3 「てぶくろを買いに」のカードやお話カードの例>

トの視点を基に比べさせた。個

人思考を十分させた後、二つの作品の似ているところをペア、学級全体で交流させた。児童はどちらの物語も出来事を通して中心人物の気持ちが変わっているということをとらえることができた。



<資料4 「てぶくろを買いに」の板書>

上部「ごんぎつね」
真ん中 気付き
下部「てぶくろを買いに」

話し合い後、気付いたことや付け加えたいことを記入した。

比べる視点・・・登場人物、中心人物、あらすじ人物の気持ちの変化について、お話の終わり方

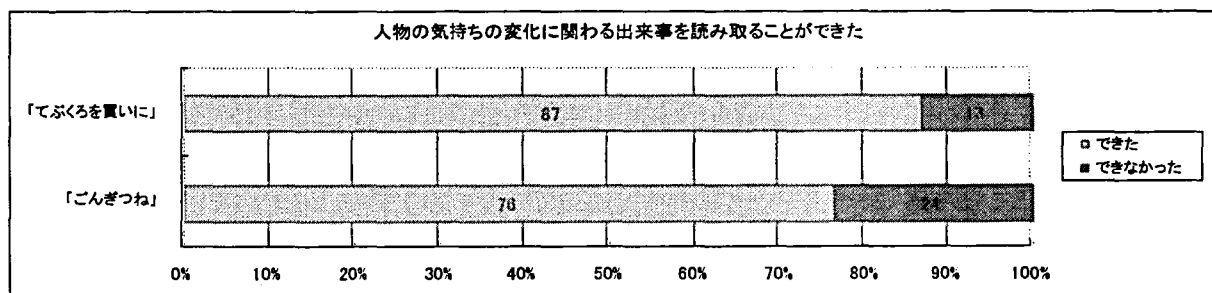
お話	登場人物	登場人物の気持ち	あらすじ
ごんぎつね	ごんぎつね	悲しい	...
てぶくろを買いに

<資料5 比較のためのワークシートの例>

3 成果と課題

<思考力育成1に関して>

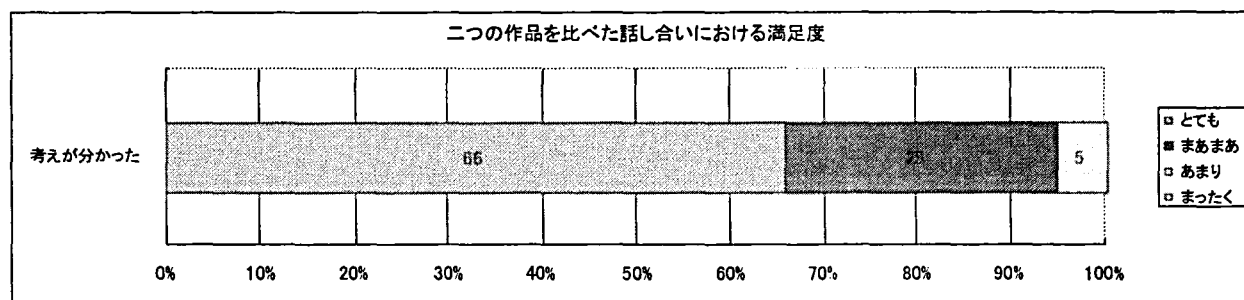
「手ぶくろを買いに」のお話カードの記述内容と単元末の振り返りアンケートによると、「ごんぎつね」での習得事項を活用して、物語の盛り上がりを考え、中心人物の気持ちの変化を読み取った記述を書くことができていた児童は87%いた。児童は、優しい人間に出会った出来事でごんぎつねの気持ちが変わったことを読み取っていた。二つの作品の主題や構造が似ていることで内容が読み取りやすかったと考えた。行動観察や単元末の振り返りアンケートによると、「てぶくろを買いに」のお話カードを作ったり、「ごんぎつね」と比較しながら関係を読み取ったりすることに88%の児童が満足していた、一つの作品だけでなく他の作品を教材として使用し比べることにより意欲も増し、作品を比較して考える力を育むことにつながったと考える。



<他の作品の読み取りの評価 平成21年11月27日実施>

<思考力育成2に関して>

資料5のワークシートを分析すると、90%の児童が物語を視点に沿って比べる記述が書けていた。また単元末アンケートによると、作品を比較する話し合いについて95%の児童が満足していた。しかし、ワークシートの記述を分析すると「一の出来事を通して一という中心人物は一な気持ちから一な気持ちに変化した。」と明確に記述できていたのは52%だった。どの出来事で最も気持ちに変化が起こったのか、なぜ人物は気持ちが変わったのか、それはなぜなのかなど、さらに視点を絞って記述させたり、それをグループや全体で意見交流する時間を十分にとったりするとよかった。比較させるための発問は、思考力育成の手立てとなったが、比較の視点を具体的に絞るべきであった。



<作品を比較する話し合い活動における児童の満足度 平成21年11月27日実施>

教材文で習得した文学的文章の読み方を活用して、同一作者の他の作品で心の変化を読み取るという学習を展開してみた。心の変化を読むためには、あらすじや登場人物を読む力は必要である。そして、どの出来事により中心人物はどのように変化したのかそのキーワードとなる言葉や文章を読む力をさらにつけていかなければならないと感じた。この実践のために新美南吉の作品を数多く読み、作者や作品について感想を話し合ったことはよかった。